

## 選択領域 8月7日(水) その1

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭、小:小学校教諭、中:中学校教諭、高:高等学校教諭、特:特別支援学校教諭、養:全校園種の養護教諭

| コード番号  | 講習の名称    | 時間数 | 対象職種    | 主な受講対象者     | 定員   |
|--|----------|-----|---------|-------------|------|
| C-1  | 特別支援教育 I | 6時間 | 教諭・養護教諭 | 幼・小・中・高・特・養 | 180名 |
| <p>テーマ：自閉症スペクトラム児の理解と実践</p> <p style="text-align: right;">講師：松島 明日香</p> <p>特別支援教育の対象となる児童生徒は年々、増加傾向にあります。中でも発達障害は個々の障害特性や発達段階によって抱える「困難」が大きく変わるため、多様な実態に合わせた支援方法が求められています。本講習では、自閉症スペクトラムに焦点を当てて、自閉症概念の歴史の変遷を押さえた上で、自閉症スペクトラム児の発達や障害について理解を深め、どのように教育実践につなげていくか考えていきたいと思います。</p> |          |     |         |             |      |
| <p>テーマ：インクルーシブ教育の理解と実践</p> <p style="text-align: right;">講師：窪田 知子</p> <p>今日、「障害のある子どもない子ども地域で共に学ぶ」インクルーシブ教育の推進が求められています。多様な教育的ニーズをもつ子どもたちを通常学校で受けとめるために何が出来るか、合理的配慮とは何か、また特別支援学校や特別支援学級で学ぶ子どもたちが地域で共に育つために何が必要かなどを考えていく必要があります。本講習では、こうした視点でインクルーシブ教育の理解と実践について考えたいと思います。</p>    |          |     |         |             |      |

| コード番号  | 講習の名称     | 時間数 | 対象職種    | 主な受講対象者     | 定員   |
|--|-----------|-----|---------|-------------|------|
| C-2  | 心と身体の健康 I | 6時間 | 教諭・養護教諭 | 幼・小・中・高・特・養 | 100名 |
| <p>テーマ：子どもの生活習慣とその支援 ～誰がいつ何を伝えるべきか～</p> <p style="text-align: right;">講師：股村 美里（びわこ成蹊スポーツ大学）</p> <p>子どもの生活習慣が夜型となり睡眠時間が短くなっていることが指摘されて久しい。平成29年には「睡眠負債」という言葉が流行語大賞にもノミネートされ、生活リズムの形成維持に注目が集まっている。子どもの生活習慣、すなわち睡眠、食事、運動は心身の健康と深く関連する。社会的な要因や成長ホルモンによる生活リズムの変容と健康教育の関連を解説するとともに、子どもに、誰がいつ何を伝えるべきか、参加者全体で考え、共有する講座である。</p> |           |     |         |             |      |
| <p>テーマ：教師のためのストレスマネジメント</p> <p style="text-align: right;">講師：多賀谷 智子（びわこ成蹊スポーツ大学）</p> <p>学校におけるストレス・マネジメントがますます重要になってきている。心理学の立場からストレスや感情、行動がおこる仕組みを取り上げ、ストレスへの対処法など、現場で活用できる内容を紹介する。また、認知行動療法の基礎的な技法を習得することで、教員自身のメンタルヘルスの向上にも役立つと考える。ワークを取り入れ、体験していただく予定である。<br/>当日は、リラクゼーション技法等のワークを行うため、軽い運動ができる服装が望ましい。</p>        |           |     |         |             |      |

| コード番号  | 講習の名称       | 時間数 | 対象職種 | 主な受講対象者   | 定員  |
|--|-------------|-----|------|-----------|-----|
| C-3  | 体験的環境学習への招待 | 6時間 | 教諭   | 幼・小・中・高・特 | 40名 |
| <p>テーマ：持続可能な社会に向けた環境教育の理念と方法</p> <p style="text-align: right;">講師：市川 智史</p> <p>今日の環境教育は持続可能な社会の構築をめざすものとされている。本講習では、参加体験型の環境教育プログラムを体験的に学ぶとともに、環境教育の目的・目標、持続可能な社会の視点等に関する講義を行う。</p>  |             |     |      |           |     |
| <p>テーマ：人と環境を考えた栽培活動を目指して</p> <p style="text-align: right;">講師：森 太郎</p> <p>農には作物を安定的に生産する機能ばかりでなく、食の安全・安心や環境、地域社会と密接に関連した多面的な機能を有している。また、教育現場ではこれらに加えて、栽培を通じた環境や食農に関する教育効果も期待されている。本講習では、農が持つ多面的な機能とそれを発揮するための取り組みについて論じるとともに、教育現場での学習に必要な栽培技術について解説する。</p> |             |     |      |           |     |

選択領域 8月7日(水) その2

| コード番号   | 講習の名称                              | 時間数 | 対象職種 | 主な受講対象者 | 定員  |
|---|------------------------------------|-----|------|---------|-----|
| C-4   | 掲示物製作やポスターセッション学習を通して集団づくりの基礎を育てよう | 6時間 | 教諭   | 小・中     | 50名 |
| 講師：狩野 秀樹  |                                    |     |      |         |     |
| <p>学級経営における集団づくりの手立てとして有効な「掲示物製作」と「ポスターセッション」の学習活動を体験し、その指導の留意点を探る。</p> <p>1. 集団づくりの基礎となる掲示物製作活動<br/>グループでの教室掲示物製作を通じて、子どもたちが主体的にかつ協力して製作活動に取り組めるような指導計画や、協働活動とするための指導上のポイントや配慮事項を追求する。</p> <p>2. 集団づくりの基礎となるポスターセッションを学習のまとめとしたグループ学習<br/>グループ学習のまとめとして、一枚だけの写真やポップなどを使っておこなうポスターセッションを取り入れ、表現力、思考力、判断力の育成をはかる学習効果を追求する。</p> |                                    |     |      |         |     |

| コード番号   | 講習の名称       | 時間数 | 対象職種 | 主な受講対象者 | 定員  |
|---|-------------|-----|------|---------|-----|
| C-5   | 子どものための統計活用 | 6時間 | 教諭   | 小・中     | 30名 |
| 講師：畑 稔彦   |             |     |      |         |     |
| <p>社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められていることから、H29年公示の学習指導要領では、統計的な内容が充実されています。新領域「データの活用」における教材と授業づくりについて考えます。</p> |             |     |      |         |     |

| コード番号   | 講習の名称                 | 時間数 | 対象職種 | 主な受講対象者 | 定員  |
|---|-----------------------|-----|------|---------|-----|
| C-6   | 幼児体育と小学校体育科の円滑な接続のあり方 | 6時間 | 教諭   | 幼・小     | 50名 |
| 講師：高田 佳孝(奈良佐保短期大学)  |                       |     |      |         |     |
| <p>幼児体育として幼児期に身につけたい運動能力と小学校体育科でねらいとしている運動能力は共通しているところがあります。しかし、幼小連携が重要視される中、その連携が円滑に行われているか疑問に感じます。本講習では講義と運動遊びや実技を通して、幼児体育と小学校体育科の接続について考えていきます。<br/>※講義形式と実技形式の講習を実施します。</p> |                       |     |      |         |     |

| コード番号  | 講習の名称      | 時間数 | 対象職種 | 主な受講対象者 | 定員  |
|--|------------|-----|------|---------|-----|
| C-7  | 身の回りの事象と数学 | 6時間 | 教諭   | 中・高     | 30名 |
| 講師：鈴木 宏昌   |            |     |      |         |     |
| <p>時々刻々と変化する身の回りの事象を数理的に捉え、事象の本質を理解する手法を学びます。事象を数理的に理解することは、時間の変化を連続的・離散的いずれに捉えるかによって、事象にまつわる関数または数列いずれかの変化を調べることに帰着されます。連続・離散の捉え方の関連についても考察するほか、コンピューターの支援による数理解析の手法も体験します。</p> |            |     |      |         |     |

選択領域 8月7日(水) その3

| コード番号   | 講習の名称            | 時間数 | 対象職種 | 主な受講対象者 | 定員  |
|---|------------------|-----|------|---------|-----|
| C-8   | 小学校におけるプログラミング教育 | 6時間 | 教諭   | 小       | 30名 |
| <p>テーマ：小学校プログラミング教育の目指すもの</p> <p style="text-align: right;">講師：穂積 俊輔</p> <p>2020年度から小学校で導入されるプログラミング教育とはどのようなものかを解説します。特に、プログラミング的思考法によって小学校では何を狙っているかを具体例を示しながら説明します。このプログラミング教育は、新しい教科としてではなく、既存の教科の中で実施していくことになります。そこで、どのように既存の教科に組み込めばよいのかをいくつかの実践例を通して紹介し、これまでの教科の教え方をプログラミング的視点で再構成するにはどうすればよいのかを考察します。</p>                           |                  |     |      |         |     |
| <p>テーマ：小学校プログラミング教育のツール</p> <p style="text-align: right;">講師：水上 善博</p> <p>小学校におけるプログラミング教育の実施に向けた課題について受講者間で討論し、問題点を共有します。次に、小学校プログラミング教育のツールとしてScratchを紹介します。Scratchはブロックを配置しながらプログラムを作るので、子どもたちがプログラミングを学ぶためのツールとして期待されています。Scratchでアニメーションやグラフィックスのプログラムを作成します。後半は、プログラミングの初歩を学ぶのに適している言語としてHTMLを紹介します。必要最小限の文法を学習し、簡単なホームページを作成します。</p> |                  |     |      |         |     |

| コード番号   | 講習の名称      | 時間数 | 対象職種 | 主な受講対象者 | 定員  |
|---|------------|-----|------|---------|-----|
| C-9   | 幼児教育の質を高める | 6時間 | 教諭   | 幼       | 50名 |
| <p>テーマ：子どもの創造性を育む遊びと環境</p> <p style="text-align: right;">講師：山本 一成</p> <p>今幼児期を過ごしている子どもたちが大人になる頃には現在をはるかに上回る規模のAI（人工知能）社会が到来するといわれています。未来を生きる子どもたちを育む上で、今、人間ならではの創造性や感性が見直されています。この講習では、幼児期の遊びを創造性との関係から読み解き、豊かな遊びを支える環境の在り方について考えていきます。</p>                                    |            |     |      |         |     |
| <p>テーマ：幼児教育に求められる「質」について考える</p> <p style="text-align: right;">講師：菅 眞佐子</p> <p>近年幼児教育の重要性が盛んに指摘されるようになり、その中で、保育の「質」についての議論も高まることとなっています。本講では、保育の「質」がこれまで議論されてきた経緯や提案されてきた評価方法等について学び、「質の高い保育」とはどのようにとらえることができるか、また、「保育の質」を高めるための手立てや方向性がそこからどのように探れるか、ということについて一緒に考えていきましょう。</p> |            |     |      |         |     |